

ローマ帝国のこと

ローマ帝国がどんなに強大であったかというのは、中高校の教科書で学びました。以前の週報・巻頭言に書きましたので、覚えておられる方がおありでしょう。

ローマの建国は伝承では紀元前753年から西ローマ帝国の滅亡が紀元476です。

1200年の期間栄えたのでした。最大の支配領域は西はヨーロッパ全域、アフリカ、東はインド北部までという広域でした。各地域にローマ総督を配置しましたが、どれほど完全に統治できたでしょうか。

「なぜ滅びたのか?」、というテーマは現代に通じる課題でもあります。

第一の原因はこれまで「納税」、「兵役」として支えていた“自由農民”の没落でした。大土地所有制、奴隷制によって働きが減少したのです。治安の悪化、政治の廃退が重なりました。こうして大帝国の統治ができなくなり滅びました。ローマ皇帝は絶大な権力をもって支配しました。ちょうどキリスト教が誕生したころは有名なネロ皇帝（在位前54年～68年）でした。ネロは野心家の母アグリッピーナの手引きで、わずか16歳で皇帝となりました。スエトニウス著「ローマ皇帝伝」には「中背で髪はブロンドだったが、体はそばかすだらけでひどく臭かった」とのこと（木村凌二著「ローマ帝国」より）。

64年にローマ市内の大半を焼き尽くす大火が起こりました。噂は「ネロは黄金宮を建てる土地を確保するために放火した」と広がりました。ネロはこの噂を打ち消すために

「この大火はキリスト教徒のしわざ」として信徒を処刑しました。このような状況にあっても伝道は進められたのです。
(山下誠也)